

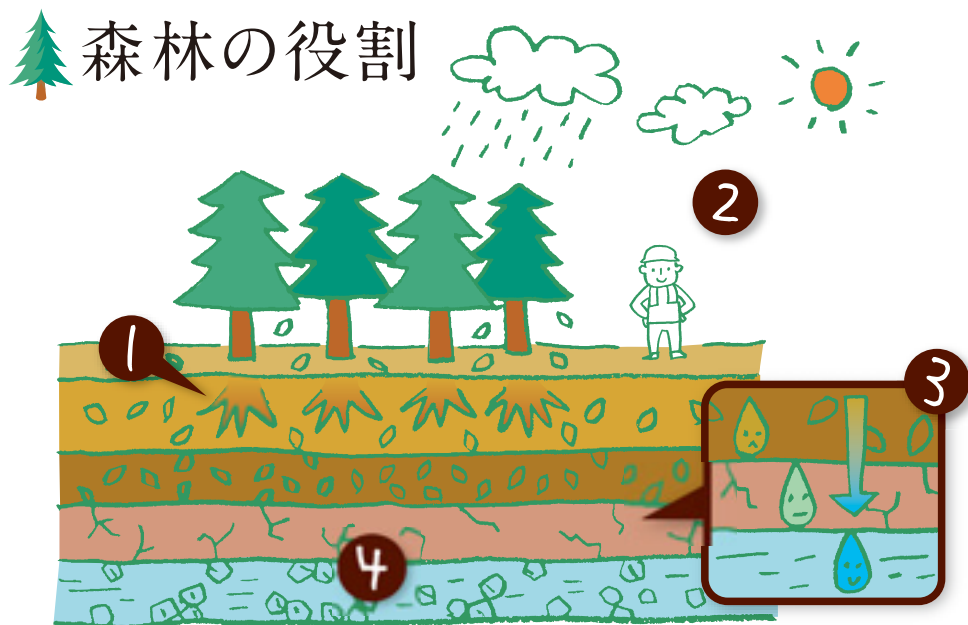
もり 森林の村 黒 滝

「森林の村」と言われるほど、豊かな森林に囲まれている黒滝村。
はるか昔から、森林とともに暮らし、森林とともに発展してきました。
森林の恵みがあるからこそ、今の私たちがあるのです。



森林の

森林の役割



① 土砂崩れ等を防ぐ

しっかりと張った樹木の根は、大雨の際にも土砂を安定させ土砂崩れを防ぎます。手入れのされていない森林は、土砂崩れを招きやすくします。

② 二酸化炭素を吸収

村を代表する杉は、50年生で1本当たり1年間に約14kgのCO₂を吸収します。人の呼吸で排出されるCO₂は1年間に約320kgなので、杉23本分です。

③ 水をきれいにする

落ち葉に住む微生物は有機物を分解してくれます。健康な森林はその効果が強く働きます。

④ 緑のダム

樹木がその体に蓄える水と、落ち葉や腐葉土が蓄える水があり、急な大雨でも、健康な森林は、ある程度ダムのように水を蓄えます。

力を知る

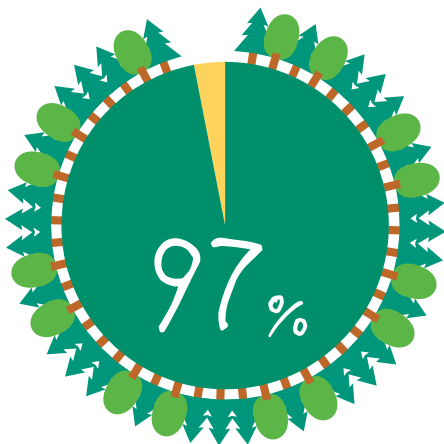


黒滝村の森林

黒滝村は杉と桧の村

約400年前から、黒滝村では伐採した跡地に杉や桧を植林してきました。また付加価値を高めるため、さまざまな手入れがされており、吉野杉は日本3大美林として有名です。早くから植林が行われてきたため、村の森林のうち実に9割が人工林となっており、黒滝村は杉と桧の村といえるでしょう。

村の森林度



吉野杉
生産地

東吉野村

黒滝村

川上村



吉野杉とは

吉野郡の中でも東吉野村、川上村、そして黒滝村で産出される杉だけが吉野杉として特に珍重されてきました。木目の均一さや濃い桜を思わせるような赤身、無節の材は、高級建築材として使用されてきました。また、時代をさかのぼれば樽丸（酒樽やみそ樽などの原材）として日本各地に出荷されていました。



森林を守

吉野林業



吉野林業の歴史

1500年頃、川上村で造林が行われたという記録が残っており、はるか昔から吉野林業の歴史が始まっていたことが分かっています。一般に吉野の材が多量に搬出されるようになったのは天正年間(1573年～1592年)。畿内の城郭建築などによる需要が増加し始めた頃です。江戸時代には森林資源の減少に伴い、造林の他、山守制度など吉野林業独自の制度が生まれ、大きく発展しました。このように今日の吉野林業は、幾多の歴史によって、築かれてきたのです。

吉野林業の特徴

借地林制度

木材生産の利益が低く、村外の商業資本に依存するしかなかった元禄年間(1688年～1704年)に始まった、自身の生活を守るために土地の所有権と使用収益権を分離する制度です。

山守制度

離れた土地から山林の経営監督が難しいことから、村外所有者が山林所在の地域住民の中から信用のある者を選んで、山守として保護管理を委託する制度。明治末期以降から採用され始めました。

密植

一般的には1ha当たり3,000本程度を植林しますが、吉野地方では1ha当たり8,000本程度植林しています。幹を太らせずに高さを伸ばすことができ、年輪幅が密で均一な強い材となるのです。

り育てる



吉野林業の流れ



1 植林

植林場所の雑草などを刈り、苗木を1本ずつ丹念に植えて肥料をまぎます。



2 下刈り

成長の早い雑草をこまめに刈る。下刈りは、植林後5年程度は必要な作業です。



4 除伐

樹勢の悪い木を切っていくことで、密植の特徴である真っ直ぐな木を育てます。



3 ヒモ打ち・枝打ち

枝があると節ができてしまうため、節のない真っ直ぐな材とするために枝を取り除きます。



5 間伐

木がある程度の直径になると間伐を行います。間伐された木は主に建築用材として取引されます。



6 伐採

80年生以上の木の伐採には危険が伴うため、熟練した職人の技術が必要となります。



森林



樽丸

樽丸とは、「樽(くれ)」と呼ばれる湾曲した側板を「マルワ」と呼ばれる竹の輪に一定量詰め込んだものをいいます。丹精込めて育てられた吉野杉のほのかな香りが酒の旨さをより引き出し、腐りにくなる特性があります。吉野林業そのものが「樽丸林業」と呼ばれていた時期もあるほど、樽丸製造は村の発展の一翼を担っていました。



Point!

樽丸製造技術が平成20年に重要無形民俗文化財に指定！芸能ではなく伝統的な製造技術が指定されたのは、県内初のことシシ♪



伝統的建造物

吉野杉の持つ美しい淡紅色や均一で密のある年輪、強度の強さは、最高級の建築用材の名にふさわしく、皇居をはじめ数々の屋敷に使用されています。粘りがある黒滝材は、歴史的建造物にも適しているため、奈良県の平城遷都1300年記念事業によって復元された大極殿の一部の柱にも使用されています。



平城京大極殿



朱雀門に使用された
黒滝村産の桧
(右から2番目の柱)



大極殿に使用された
黒滝村産の桧



Point!

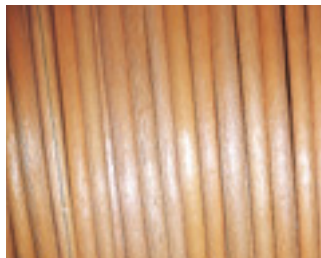
安土桃山時代、この地域は豊臣秀吉が領有し、大坂城や伏見城などの城郭に吉野の材が使われたシシ♪

とともに



磨き丸太

黒滝村の住民が京都北山で技術を学んだのが始まりとされており、主に床柱などの建材に使われています。美しい表面の^{しほ}縦じわが特徴です。



Point!

天然にできた紋を持つ天紋や、プラスチックの型で人工的に作られた人紋などの種類があるシシ♪



木工品

良質な木の香りや肌触りを味わってもらえるよう、伝統工芸品から日用品まで多くの木工品を作り、村の特産品として発信しています。



Point!

割りばしや木べら、透かし彫りの文字入り積み木など、多彩な商品を取りそろえているシシ♪



森林を使った観光

黒滝村では、産業分野だけでなく、観光分野においても豊かな森林を活用しています。黒滝の自然による村おこしをめざして作られた山里型リゾート施設「黒滝・森物語村」や良質な村の材を使用して建てられた道の駅「吉野路 黒滝」などの他、最近では、村制100周年を記念して、幸福の神様ビリケンさんを黒滝の絵で制作しました。光背と台座には、紀元前141年(樹齢約2150年)の神代絵を用いています。



▲ 道の駅「吉野路 黒滝」



絵で作ったビリケンさん▶

木を使わない＝ 森林の保全ではない

「森林を守るためには、木を使わない方がいい」と思われがちですが、そうではありません。国産材を使うことは、森林づくりの循環にとって大切なことです。国産材を使うことによって、森林の定期的な整備を生み、森林の荒廃を防ぎ、村の産業の発展につながっていくのです。

地球温暖化防止に つながる

森林の整備をきちんと行うことで、森林によるCO₂の吸収量を増やし、地球温暖化を防止することができます。また、国産材を使うことで、海外の木を輸送する時に出る地球温暖化の原因となるCO₂などの温室効果ガスの発生も抑えることができます。

森林あれこれ

世界の森林事情

1970年代後半から1980年代にかけての家畜の過放牧や森林火災などによる森林の減少・劣化を受けて、森林保全の取り組みが進められていますが、世界では1990～2010年の20年間で、日本の国土の約4倍の森林がなくなるなど、今なお森林減少は続いています。

世界で広がる 森林を守る取り組み

国際的な問題となっている地球温暖化防止にもつながる森林を守るため、平成23年には「国際森林年」が設定され、世界中の国々による主体的な森林管理・利用への取り組みが進められました。現在も、貴重な地球の資源である森林を守る活動が多方面で行われています。

黒滝村林業パンフレット

発行：黒滝村

〒638-0292 奈良県吉野郡黒滝村大字寺戸77番地

TEL:0747-62-2031 / FAX:0747-62-2569

<http://www.vill.kurotaki.nara.jp/>

制作：株式会社 日本出版



黒滝村
マスコットキャラクター
「くろたん」

